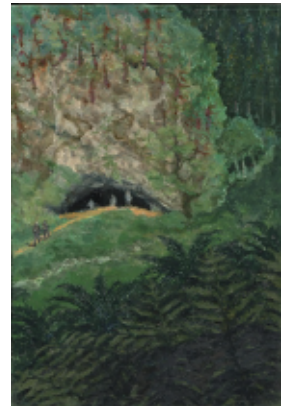
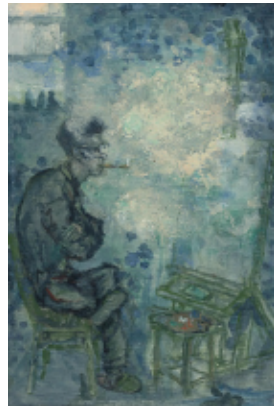
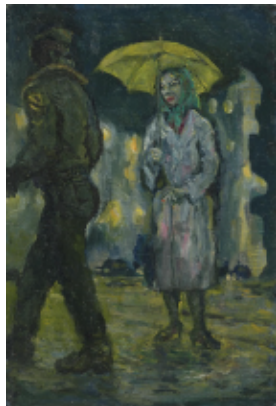
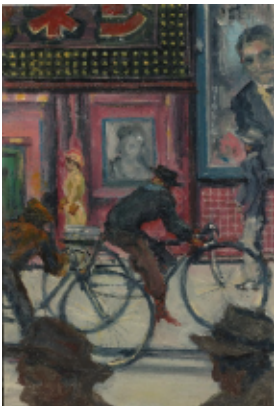


島田澄也展

蒼き昭和時代



上段左より《1930年頃のメーデー》、《2.26事件の朝》、《築地小劇場》、中段左より《フィルム運びの若い衆》、《お父ちゃん、あしたから兵隊だ》、《GIと街の女》、《瞑想するシュルレアリスト大塚睦》、《ハチジョウ岩 小河内村山村工隊のアジト》、下段左より《東京大空襲》、《アトリエ村丸木位里・俊子アトリエ》、《勇敢な絵描き 前衛画家山下菊二》

2015年 4月18日(土)~7月11日(土)
原爆の図 丸木美術館

埼玉県東松山市下唐子 1401
電話 0493-22-3266
月曜休館 (祝日の場合は翌平日)



《夜明けのサイレン》



《ぼくの宝物》



《線路工夫の歌》



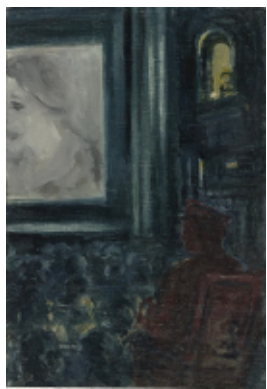
《治安維持法による家宅搜索》



《特高警察》



《武蔵野電鉄》



《無声映画時代、舶来映画と弁士と臨検席の巡査》



《油絵具の好きな子供》



《教育勸語》



《千人針》



《全てが戦慄、空襲のサイレン》



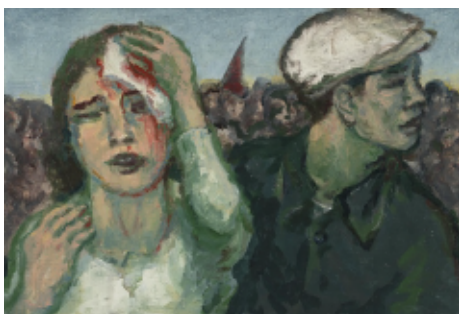
《出征兵士とその家族》



《灯火管制》



《炎とかけろう 我が家はすべてを失った》



《メーデー事件》



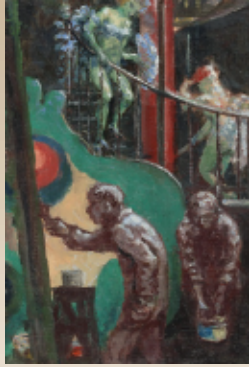
《小河内村山村工作隊岩座で資本論を読む人》

島田澄也展

蒼き昭和時代



《画友尾藤豊・実子夫妻》



《アルバイトをする画友入野達弥》



《小河内村》



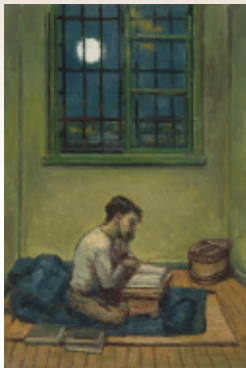
《四人の夢》 油彩・カンヴァス、1954年、個人蔵



《おき（奥山）へ行く山林労働者たち》



《逮捕》



《独房は夜でも明るい》



《ツキメシを食う》 油彩・カンヴァス、1954年、個人蔵



《官選（国選）弁護人》 油彩・カンヴァス、1954年、個人蔵



《勾留理由開示公判》 油彩・カンヴァス、1954年、個人蔵

【島田澄也略歴】

1927年8月18日、東京府北豊島郡長崎町に生まれる。東京美術学校（現東京藝術大学）中退の後、絵描き仲間に入る。前衛美術会会員。東宝撮影所アルバイトを経て、島田工房設立。その後、株式会社サンク・アール創業社長。コマース各種の美術及び博物館の展示模型製作等を主体とする業務を専らとし30年のち引退。創作活動に入り現在に至る。

【主な出品履歴】

●前衛美術展（前衛美術会主催）

第1回（1947年5月24日-6月7日）東京都美術館 出品作不明

第2回（1948年7月7日-15日）東京都美術館 《同志D》、《同志S》、《同志A》、《同志M》、《同志K》

●前衛美術会街頭展（前衛美術会主催）

第1回（1947年7月）、第2回（1947年9月）、第3回（1947年11月）、

第5回（1948年3月）=いずれも銀座天元画廊=に出品の可能性あり

第7回（1949年9月1日-7日）《挑発》、《無抵抗》

●日本アンデパンダン展（日本美術会主催）

第1回（1947年12月9日-18日）東京都美術館 《あかり》

第2回（1948年11月22日-12月16日）東京都美術館 《戦争反対》、《貨車》

第3回（1950年2月8日-17日）東京都美術館 《軍事基地風景》、《観光国》

第4回（1951年2月5日-14日）東京都美術館 《石》、《静物》

第5回（1952年2月3日-14日）東京都美術館 《腹芸》、《新聞》

第6回（1953年2月22日-3月5日）東京都美術館 《そり道》、《小河内村》、《工夫》、《ダム工事現場》

第7回（1954年2月22日-3月5日）東京都美術館 《山の人びと》

第8回（1955年3月1日-17日）東京都美術館 《炭焼き老人》

第12回（1959年2月18日-3月1日）東京都美術館 《倒れる木》

●平和のための美術展（平和のための美術展委員会主催）

1952年6月2日-13日 東京都美術館 《魚の居ない海》、《農地》、《海の底》、《波止場》

●平和美術展（平和美術展実行委員会主催）

第3回 1955年8月12-20日 《まぎわり》

第4回 1956年8月11日-21日 《ねぐらへかえる》

第7回 1959年6月23日-7月4日 《作品》

●ニッポン展（前衛美術会・ニッポン展実行委員会主催）

第1回（1953年6月22日-7月4日）東京都美術館 《山の男》

第2回（1954年6月6日-19日）東京都美術館 《老人》

第3回（1955年6月12日-25日）東京都美術館 《田》、《馬方》

第4回（1956年6月9日-22日）東京都美術館 《仲仕》、《風景》、《裁判》、《官選弁護士》、《闘鶏》（目録には「島田隆也」と記されているが、「澄也」の間違いだと考えられる）

第5回（1957年6月30日-7月11日）東京都美術館 《競輪》、《村の終焉》

第6回（1958年7月15日-27日）東京都美術館 《化石になった街》、《化石になつた街》

●パンとバラの会5人展

1954年3月9日-15日 タケミヤ画廊 入野達也、島田澄也、山下菊二、桂川寛、

尾藤豊（2回展は「パンとバラの会展」1955年9月11日-20日タケミヤ画廊、3

回展は「パンとバラの会7人展」1956年9月21日-31日タケミヤ画廊）

島田澄也の名前が美術史に登場するのは、1952年に東京・小河内村で行った山村工作隊の活動です。建設中のダムが米軍基地を支える電力源になるとの考えから、建設労働者を組織して破壊活動を行う目的で展開した文化工作で、島田澄也のほか、山下菊二、尾藤豊、入野達弥、勅使河原宏、桂川寛の6人が、建設現場付近の洞窟などで約2カ月間キャンプ生活を行いました。その間、ガリ版刷りの『週刊小河内』を共同制作。政治的にはほぼ成果を得られませんでした。それぞれの画家にとっては後の絵画制作に大きな影響をもたらす忘れがたい体験となりました。

近年、1950年代の文化運動を再評価する動きが広がりつつあります。戦争への反省を踏まえ、自分たちの手で社会を変えていくのだという意志が一般の人たちに芽生え、「下からの民主化」が大きなエネルギーを発散させた時代。芸術家も「大衆」や「前衛」を強く意識し、時に政治との距離を接近させながら、他の時代には見られないさまざまな活動を展開しました。丸木夫妻の《原爆の図》もそうした時代のうねりの中にあつた作品です。島田は戦後すぐに東京・豊島区の丸木位里・俊夫妻のアトリエで行われたデッサン会に参加。1955年5月には《原爆の図》を携えて、山下菊二と二人で秋田県大館市へ赴き、「原爆の図展」を開催するなど、夫妻とは親しく関わりを持っていました。

やがて島田は造形会社を設立して絵画の世界から距離を置きますが、引退後に再び絵筆をとると、全国各地を巡って風景画を描きはじめます。さらに幼少期から戦争を経て戦後の画家活動にいたるまでを振り返り、200点近くの油彩画の小品に書き起こしました。その豊かな記憶の描写は、写真にも残されていないような光景が数多く、重要な文化史としての意味を持つことでしょう。

今展では、それらの記憶画とともに、1950年代に制作した油彩画《勾留理由開示公判》や《官選(国選)弁護士》などを展示し、文化工作隊で訪れた小河内村や「原爆の図展」で訪れた秋田の風景スケッチ、共同制作によるガリ版刷りニュース『週刊小河内』第1号(豊島区蔵)などの貴重な資料も展示します。戦後70年を迎えた節目の年に、ひとりの画家の視線から見た激動の時代の光景に触れ、ぜひその意味を再発見して頂きたいと思ひます。

〈会期中の主な企画〉

●島田澄也展オープニングトーク

4月19日(日)午後2時
出演：島田澄也(画家)
島田北斗(島田澄也次男、版画家)
参加費自由(入館料別)

●1950年代 幻灯上映会

協力：神戸映画資料館、人形劇団プーク
4月25日(土)午後2時
料金：大人1000円
18歳以下500円(入館料別途)
上映作品：『松川事件1951』(1951年)／『野ばら』(1952年)／『山はおれたちのものだ』(1954年頃)／『平和のかけ橋 李徳全女史来訪記録』(1955年?)
トークセッション「1950年代文化運動と幻灯」
出演：鷺谷花(早稲田大学演劇博物館招聘研究員)、鳥羽耕史(早稲田大学)、道場親信(和光大学)
1950年代に、誰にでも作り、人を集めて上映できる映像メディアとして、社会運動の場においても自主製作・自主上映が盛んに行われた幻灯。今回上映する1950年代の幻灯作品は、いずれも社会運動に関連して自主製作されたもので、現場での貴重な記録であるばかりか、その後さまざまなジャンルで活躍したアーティストが、それぞれに創意を發揮した作品としても重要な価値をもつものです。

チラシを持参の方は、丸木美術館入館料が100円割引になります



《アトリエ村》



《1945年3月11日の朝》



《夢をみる戦災浮浪児》

公益財団法人 原爆の図 丸木美術館

5月5日は開館記念日・8月6日はひろしま忌
[常設展]「原爆の図」連作
「水俣の図」
「南京大虐殺の図」
「アウシュビッツの図」
「水俣・原発・三里塚」
絵本原画、丸木スマ水彩画等

[開館時間] 午前9時～午後5時
[休館日] 月曜日(祝日の場合は翌平日)
4/28～5/10は無休
[入館料] 大人900円 中高生または18歳未満600円
小学生400円 団体(20名以上)、60歳以上、
チラシ持参者、比企地区在住者100円割引
障(しょうがい)のある方は半額

〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1401
TEL 0493-22-3266 FAX 0493-24-8371

[URL] <http://www.aya.or.jp/~marukimsn/>
[Eメール] marukimsn@aya.or.jp
[交通] ●東武東上線森林公園駅
南口よりタクシー10分、徒歩50分
北口よりレンタサイクル20分
●東武東上線東松山駅・高坂駅より
市内循環バス唐子コース(日祝運休)
「浄空院入口」「丸木美術館北」下車
●閑越自動車道
東松山インターより小川方面10分
●東武東上線つきのわ駅南口から徒歩27分、詳細は丸木美術館にお問い合わせ下さい

【市内循環バス唐子コース時刻表】

○丸木美術館行き(日祝運休)
08:05 東松山駅東口→08:22 浄空院入口
11:12 東松山駅東口→11:29 浄空院入口
12:07 高坂駅西口→12:25 丸木美術館北
13:12 東松山駅東口→13:29 浄空院入口
15:22 高坂駅西口→15:40 丸木美術館北

※帰りの時刻はお問い合わせ下さい。

